

平成 22 年度森林資源活用型ニュービジネス創造対策事業等
中間評価結果の概要について

1. 中間評価結果の概要

[平成 20 年度採択分]

(1) 木質バイオマスからのナノカーボン製造システムの確立

事業者名：株式会社 東芝

評価結果：妥当である

総合所見：技術実証の取組は計画に沿って順調に進捗している。今後、生成したナノカーボンの特性や期待される用途等について明らかにすることが重要である。

(2) バイオオイル化による森林資源トータル利用システムの確立

事業者名：栃木県森林組合連合会

評価結果：妥当である

総合所見：技術実証の取組は計画に沿って概ね順調に進捗している。今後は、主要課題であるマイクロ波によるバイオオイル化に重点をおいて、技術実証の加速化を図ることが必要である。

(3) 木質バイオマスからの新たなエタノール製造システムの確立

事業者名：独立行政法人 森林総合研究所

評価結果：妥当である

総合所見：技術実証は計画に沿って概ね順調に進捗している。しかし、実用化には課題もあり、システム全体のプロセスについてコスト試算、エネルギー収支などを明らかにし、ビジネスモデルとしての可能性についての検証を行うことが不可欠である。

[平成 21 年度採択分]

(4) 水蒸気爆砕法による木質バイオマスからの高機能樹脂等製造システムの確立

事業者名：国立大学法人 徳島大学

評価結果：妥当である

総合所見：技術実証の取組は計画に沿って概ね順調に進捗している。今後は、主要課題である水蒸気爆砕によるリグニンの活用(エポキシ樹脂化)に重点をおいて、技術実証の加速化を図ることが必要である。

(5) 木質バイオマスからのリグノフェノール及びメタン製造システムの確立

事業者名：旭有機材工業株式会社

評価結果：見直しが必要

総合所見：技術実証をリグノフェノールの製造に重点化し、その成果目標を明確にした実証計画の見直しを行うとともに、重点化する技術実証内容に即した実施体制の見直しを行うことが必要である。

2. 評価について

本評価については、各技術実証の実施状況や中間成果等を確認し、適切な助言を行うことにより、事業の効果的で効率的・効果的な推進に資することを目的として、外部評価委員を設置して11月25日、26日に評価会を開催しました。

評価は、委員による実証施設の現地調査、事業実施者から提出された書面及びヒアリングにより、技術実証の進捗状況、実証目標の達成状況、事業化の可能性等の観点から行い、総合評価として下記の4区分に格付けしました。

・高く評価される	(実施状況等が優れており、計画以上に進捗しているもの)
・妥当である	(実施状況等が概ね許容できるもの)
・見直しが必要	(現状の取組では目標の達成が難しく、計画等の見直しが必要なもの)
・中止又は大幅な改善が必要	(現状の取組では目標達成は困難と判断されるもの)

3. 評価委員名簿 (五十音順)

氏 名	所 属
あおやま かよ 青山 佳世	フリーアナウンサー
あかいけ まなぶ 赤池 学	(株)ユニバーサルデザイン総合研究所 所長
きたに おさむ 木谷 収	東京大学 名誉教授
さか しろう 坂 志朗	京都大学大学院 エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 教授
しげはら きよたか 重原 淳孝	東京農工大学 工学部有機材料化学科 教授
すずき つとむ 鈴木 勉	北見工業大学 工学部バイオ環境化学科 教授
よこやま しんや 横山 伸也	東京大学 名誉教授

お問い合わせ先
〒100-8952
東京都千代田区霞ヶ関1-2-1
林野庁研究・保全課技術開発推進室技術指導班
担当：池田、久保田
代表：03-3502-8111 (内線6215)
ダイヤルイン：03-3501-5025
FAX：03-3502-2104